

2017年01月24日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【トランプ新政権は、TPPを離脱した】

トランプ大統領が就任しました。

トランプ新大統領は、就任式を終えると、早速に、TPP離脱の大統領令に署名しました。

これで、TPP(環太平洋経済連携協定)は、事実上、意味が無いものになった、と考えます。

つまり、何らかの形でTPPを存続させても、形骸化しただけのものに過ぎない、と考えます。

日本サイドでは、トランプ大統領と粘り強く交渉するとか、TPPを、米国抜きで実施するとか、様々な意見が飛び交っていますが、時間の無駄なので、さっさと、TPP交渉を打ち切るべきでしょう。

「トランプ氏が、大統領就任後は、その言動が穏やかになるのではないか？」
といった、希望的な意見・コメントが散見されましたが、個人的には、就任前も就任後も、トランプ大統領は同様のパターンで、政策を打ち出してくるのだろう、と考えています。

もともと、大統領選挙の際に、TPP反対を表明していたのだから、トランプ新大統領にしてみれば、その就任直後に、その事前の公約に従い、早々に決着を付けただけのことだ、と考えます。

+++++

トランプ大統領が、就任前に挙げていた政策は、保護主義的な政策であり、理屈では、外国為替に関して、ドル安円高政策の可能性が高い、と考えていました。

早々にTPPの離脱を実行しました。

これからトランプ大統領の目指すところは、就任前に話していた内容と同じだろう、と考えます。

「アメリカ第一主義」
「アメリカでの雇用を増やすこと」
「アメリカの景気を良くすること」

トランプ大統領が、アメリカの雇用と景気を考えた保護主義的な政策を採ることは、間違いない、と考えます。

だから、貿易不均衡は、外交交渉の重要な課題です。

米国の製品を、日本がもっと買うように求めてくることは明らかでしょう。

米国は、T P Pから離脱したのですから、それぞれの二国間貿易で、F T A（自由貿易協定）を求めることになります。

この外交交渉は、日本にとって、非常に厳しいものになることも明らかでしょう。

その先に垣間見えるのは、外国為替に関する米国の政策です。

トランプ大統領の就任式が先週末（1月20日）に行われ、今週になってのドル／円が、円高気味に推移しているのは、

『トランプ新政権が、中国と日本を為替操作国と認定し、「ドル安中国元高政策」「ドル安日本円高政策」を打ち出す可能性があるのではないか？』

といった思惑が働いている、と考えます。

+++++

（2017年01月24日東京時間15：10記述）